まちなか研究所
わくわく

2012年度　事業報告書

2013/5/20

当会の使命と基本理念

【使　命】 2004年設立（2005年2月法人認証）
すべての人々が、自ら暮らすまちを
想い、考え、納得してつくっていけるような市民社会の実現

【合言葉】
みんなで「決めて」みんなが「つくる」そんな社会づくりのために、
まちわくは人と組織を「つなぎ」「話し合う」場と社会環境をつくります。

【基本理念】
〇みんなで決めてみんながつくるまちづくりの活動と活動サポート
〇市民公益活動を行う団体の活動サポートと市民社会のインフラ整備
〇参加型の場づくりの企画運営と人材育成
〇地域のNPOモデルとなるような継続的な市民活動の組織運営

「まちづくり」は「ひとづくり」

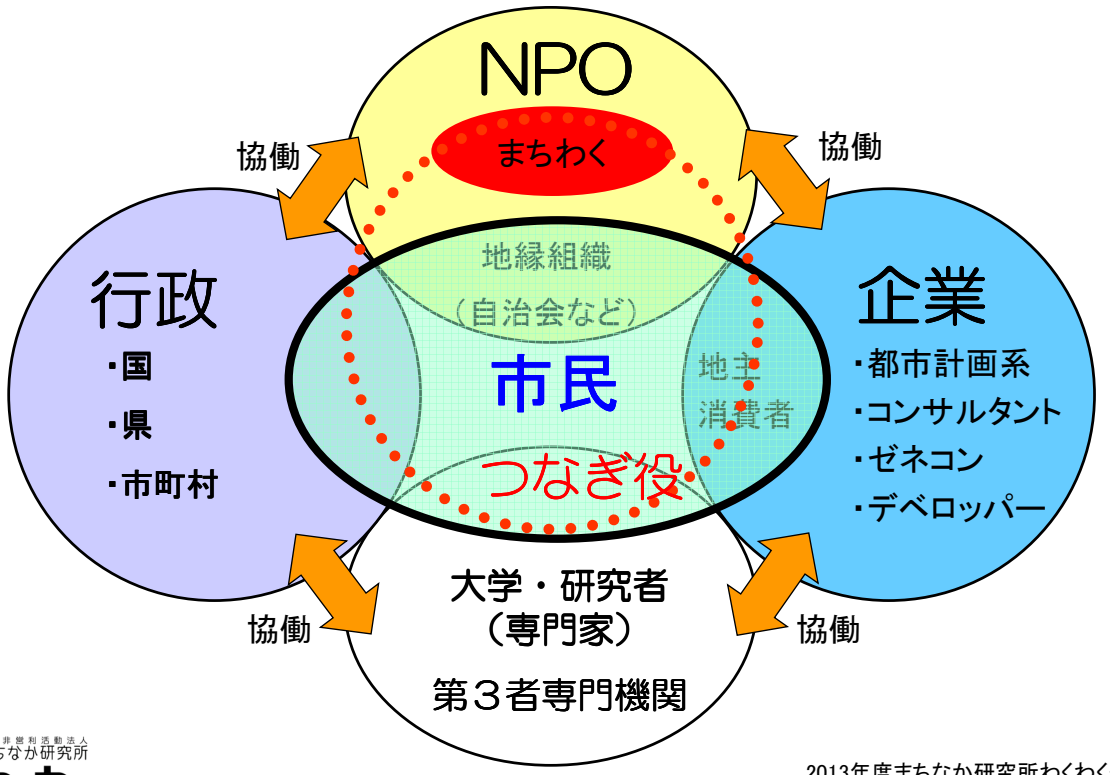
① 社会に対し、ポジティブなアクションをしている人たちを応援し、タッグを組むことで

多様なコミュニティを育て、社会を変えていきます。

② 社会参加の機会を拡大します。

- ファシリテイティブな人材育成
- 異分野・異業種の協働の促進
- 地域の課題解決にチャレンジする人材の育成
- 市民の社会参加のしかけづくり

当会の活動領域



２０１２年度方針に対する実施概況

活動方針	
写真や情報誌などの地域情報のアーカイブと発信を通じて、地域と人をつなぎ、地域への参加を促すモデルをつくる	久茂地小学校や曙小学校での活動が中心となり、小学校を核とした地域コミュニティでの地域活動支援や参加の機会づくりを行った。
外部ファシリテーターとのパートナーシップや地域人材のファシリテーター育成を通じて、沖縄社会における参加型の場づくりの機会を増やす	ファシリテーター養成講座の実施による外部パートナーの発掘に取り組んだ。派遣件数は減少したものの複数回ワークショップの増加が見られた。【派遣件数44件、複数回WS：6件】
「沖縄地域社会ビジョン大学院」のしくみづくりを通じて、社会貢献意識の高い社会人層を活性化する社会基盤を整備する	「沖縄地域社会ビジョン大学院2012・夏」の開催（参加者15名）と持続的な運営について検討する運営協議会の設置を行った。

運営方針	
多様な財源構成 【自主事業目標20%（2011年度：13%）】	多様な財源構成 【自主財源率：36%（2011年度：26%）】
大学生インターンの受け入れ	9月に3日間の短期大学生インターン（1名）の受け入れを行った。

２０１２年度　活動ハイライト-1

- **糸満市市民活動支援センター２年目**
  - 中央市場へ移転リニューアル。市民提案型まちづくり事業事務局を担う。申請倍率が３倍に（申請１２団体・採択４団体）
- **沖縄地域社会ビジョン大学院2012・夏（第2期）開催受講後、４つのコラボ企画が生まれる**
  - 15名の受講者と8の企画提案
- **JOINT「NPOスタッフ交換留学」に６名６団体が参加**
- **ファシリテーター派遣４４件、内複数回WS６件**
  - 経年で見ると派遣実績は増加。収入も増えている。単発から連続WSへ。
  - 与那原町社協の「地域福祉活動計画住民WS」(全4回)受託
  - 株式会社国建との住民WS等
- **ファシリテーター養成講座開催、３０名が参加**
  - 青木将幸氏を招き７年ぶりに開催
  - 受講者がまちわくWSへ参画

糸満市市民活動支援センター移転リニューアルオープン

沖縄地域社会ビジョン大学院2012・夏開校

２０１２年度　活動ハイライト-2

- **第５回「マチグゥー楽会」開催**
  - 区切りとなる5回目の楽会を公設市場を飛び出し、平和通りで開催。
- **曙小学校で２０名（延べ約２００名）の学習支援ボランティアをコーディネート**
  - 貧困の連鎖を解消する「現代の寺子屋」プロジェクトの一環で実施
- **「久茂地小学校を存続させる会」へ参画。２回のWSで「くもじ地域ビジョン」を策定**
  - 自治会、PTA、児童館母親クラブ、旗頭、児童クラブ（学童）、等が参加
- **地域情報誌「み～きゅるきゅる」約４３０冊販売**
  - 沖縄グッド・トイ委員会と連携し特集「ユッカヌヒー」に着手
- **初のスタッフ県外視察研修で岡山・兵庫へ**
- **自主財源率２６％→３６％へ**

第5回マチグゥー楽会開催

ファシリテーター養成講座を開催

みんなで決めてみんながつくる まちづくりの活動と活動サポート

ー　コミュニティ支援事業部　ー

●2012年度　目標
①大学と連携した「み～きゅるきゅる」の制作
②久茂地地域の防災の取り組みのモデル化
③中長期（10年）を見据えた事業づくり

■達成度【60%】
・地域情報誌「み～きゅるきゅる」は、大学との連携はできなかったが、沖縄グッド・トイ委員会と連携し「ユッカヌヒー」をテーマに制作に着手。
・「久茂地小学校を存続させる会」への参画と同会と連携した「くもじ地域ビジョン」づくりに取り組んだ。
・曙小学校での寺子屋プロジェクトは、まちわくとしてはじめてのボランティアコーディネート業務となった。
・「小学校区単位でのコミュニティ支援」にチャレンジすることとなり、小学校を核とした地域づくりへの方向性を見出した。
・事業の進捗管理ができていない部分があり、課題である。

②　2012年度実施事業

マチグヮー楽会

1）第5回マチグヮー楽会の開催
【日時】2013年2月23日（土）
【会場】平和通り商店街
【参加者】発表者3名、参加受付者57名
【主催】マチグヮー楽会
【共催】第一牧志公設市場組合、市場の古本屋ウララ

地域情報誌「み～きゅるきゅる」

1）Vol.8　特集：ユッカヌヒー　制作途中
【制作メンバー】5名
【協力団体】沖縄グッド・トイ委員会
2）販売
【委託】
エコショップがじゅまるガーデン／市場の古本屋ウララ／ちはや書房／琉球帆布＆アート雑貨セレクトショップ 沖縄の風／桜坂劇場／ジュンク堂書店那覇店／リウボウブックセンターLIBRO（リブロ／宮脇書店 那覇国際通り店
【ネット販売】
在庫切れとなったVol.2（久茂地）、Vol.3（前島）のPDFダウンロード販売を開始

久茂地小学校を存続させる会

1）久茂地小学校を存続させる会の会から相談受け、地域の望む姿を描く、久茂地地域ビジョンづくりワークショップを実施。また、存続させる会の構成団体になり、週一の定例会に参加。

「放課後寺子屋教室」ボランティアコーディネーター業務

1）貧困の連鎖を解消する「現代の寺子屋」プロジェクトの業務を受託
【内容】那覇市立曙小学校で放課後学習支援を行うボランティアのコーディネート業務。
【委託者】貧困の連鎖を解消する「現代の寺子屋」プロジェクトチーム（トヨタ財団助成金）
【期間】2012年6月25日～2013年3月15日
【実施日】毎週月、火、金　14:30～16:30
【ボランティア人数】20名

福島県浪江町広報誌「なみえ」の取材

1）昨年度に続き、福島県浪江町から沖縄に避難された方の取材を行い、広報「なみえ」に記事掲載。
依頼者：東北圏地域づくりコンソーシアム推進協議会（高崎経済大学教授櫻井常矢氏）

事業ふりかえり

①第5回マチグヮー楽会の開催
- 那覇平和通りの空き店舗を会場に開催。平和通り会、市場の古本屋ウララといった新規外部とのパートナー連携ができた。

②「職場体験プログラム」、「てくてく通信」
- （公財）みらいファンド沖縄の「ぱくと」助成を活用し、マチグヮー近隣中学校の受け入れマニュアルを作成中である。
・てくてく通信について、4-7月までは宮下担当で進めたが、以降は写真のタグ付け管理ができなかった。

③み～きゅるvol8号（特集：ユッカヌヒー）
「ユッカヌヒー」の特集号として制作を開始した。制作中。

④久茂地小学校を存続させる会
「くもじ地域ビジョン」づくりWSの実施から統廃合運動へ参画。統廃合に反対する立場を持ちながら、今後の地域づくりに取り組むことや、行政の施策に反対する活動支援のあり方について深める必要がある。

⑤寺子屋学習支援ボランティアコーディネート
ボランティアコーディネートの実践を積む事ができた。学校からの地域づくりに取り組むきっかけになった。

次年度方針

①楽会の役割の再定義
楽会は、マチグヮーでチャレンジする器としての役割があるが、運営等今後について検討する。

②マチグヮー職場体験プログラム
•「ぱくと」助成を活用し、第一牧志公設市場と連携したマチグヮーの価値を高めるキャリア教育的視点からの職場体験プログラムのマニュアルを作成する。

③てくてく通信
・総括するとともに、方針を決め、通り会の基礎情報とフロー情報の行き場、マチグヮーの写真画像アーカイブの活用、楽会での写真展のようなリアルな展示（出口）などの活用を考える必要ある。

④久茂地小学校を存続させる会
・小学校統廃合の反対の活動だけでなく、統合する両校PTAの交流支援及び久茂地小学校の跡地活用を含めた久茂地地域のこれからのビジョンづくりへの取り組みにシフトしていく。

⑤寺子屋学習支援の事業提案
・2013年度の実施は決まってはいない。学校と連携し地域主体での子どもの居場所（寺子屋教室）づくりをつくれる提案を周辺企業に提案していく。

参加型の場づくりの
企画運営と人材育成
― ファシリテーター派遣事業部 ―

●2012年度　目標

①具体的なメニューと実績の発信　②依頼リピート率の向上
③主催養成講座の開催　④インターンシップの導入
⑤外部ファシリテーターとの連携

■達成度【80%】

・主催でのファシリテーター講座開催（9月開催、参加者30名）の実現により、今後パートナーとなりえる外部ファシリテーターのコミュニティの芽をつくることができた。
・経年で見ると派遣実績は増えており、かつ収入も増えている。派遣単価を上げ、単発から複数回のまとまった参加の機会づくりの業務へ移行しつつある。【派遣件数44件、複数回WS：6件】
・コンサルタントや行政、自治会など、参加を求める他組織との連携によって参加を提供していく実績を積むことができた。

2012年度実施事業

研修・講座事業（8件（前年度37件））

1）ヤング宜野湾（依頼：NPO法人まじゅんの会）
2）地域ネットワーク会議（依頼：南城市社協）
3）全国コミュニティシネマ会議(依頼：桜坂劇場)
4）てだこ市民大学(依頼：浦添市)
5）ケアマネ会議ファシリ研修（依頼：ケアマネ協会）
6）自然ガイド養成事業におけるファシリテーター養成講座（依頼：NPO法人ホールアース研究所）

委員派遣　（10件（前年度5件））

1）沖縄県ボランティア・市民活動支援センター運営委員（依頼：沖縄県社会福祉協議会）
2）糸満市社会福祉協議会評議員（依頼：糸満市社会福祉協議会）
3）那覇市災害救援ボランティア推進会議委員（依頼：那覇市社会福祉協議会）
4）うるま市地域活動助成事業選考委員（依頼：うるま市）

ファシリテーター派遣事業（24件（前年度22件））

1）「参加」で社会を変えるファシリテーター講座を開催
【日時】2012年9月23日（日）　【参加者】30名
【講師】青木将幸氏（青木将幸ファシリテーター事務所　代表）
2）久茂地の地域ビジョンづくりWS(依頼：久茂地小学校を存続させる会)
3）与那原町社協地域福祉活動計画住民ワークショップ(全4回)((依頼：与那原町社協)
4）北部地域フォトレポWS（依頼：平良斗星氏）
5）沖国大岩田ゼミワークショップ（依頼：岩田直子氏）
6）沖縄県景観向上行動計画ワークショップ（依頼：（株）国建）
7）万座毛周辺整備計画村民ワークショップ(全4回)(依頼：(株)国建)
8）奥武山公園スポーツ施設整備基本構想市民ワークショップ(全4回)(依頼：(株)国建)
9）国際協力セミナー（依頼：沖縄リサイクル運動市民の会）
10）那覇地域円卓会議（依頼：那覇商工会議所）
11）名護地域円卓会議（依頼：みらいファンド沖縄）
12）みーばい円卓会議（依頼：みらいファンド沖縄）
13）那覇商工会議所全国大会　地域円卓会議（依頼：みらいファンド沖縄）
14）上映会「和田中の1000日」&ワークショップ（依頼：東濱）

事業ふりかえり

①7年ぶりのファシリテーター養成講座の開催
今後仲間となる可能性のある人たちとつながれた。講座後は、受講者の持つ現場を共有し、育ちあう機会を共有するためのMLを立ち上げた。また、受講者がまちわくの行うWSにファシリとしてボランティアやバイトとして参加してもらうことができた。

②行政、NPOからの講座・ファシリ依頼が減少
体外的な中間支援の看板と発信が減っているためか、行政職員研修とNPO支援研修がなかった。

③連続講座の依頼が増加
- 単発ではなく連続回数の講座やワークショップの依頼が増えた。(与那原町社協や(株)国建など)
- 2011年度からの依頼件数が急増であったため昨年度からは依頼件数は減少しているが、2010年度以前からみると増加しており、収入実績としては、2011年度より増加している。

②コンサル業者とのワークショップ講座
- (株)国建より、景観や地域づくりの計画への参加の場づくりとして、ワークショップ業務を受託した。

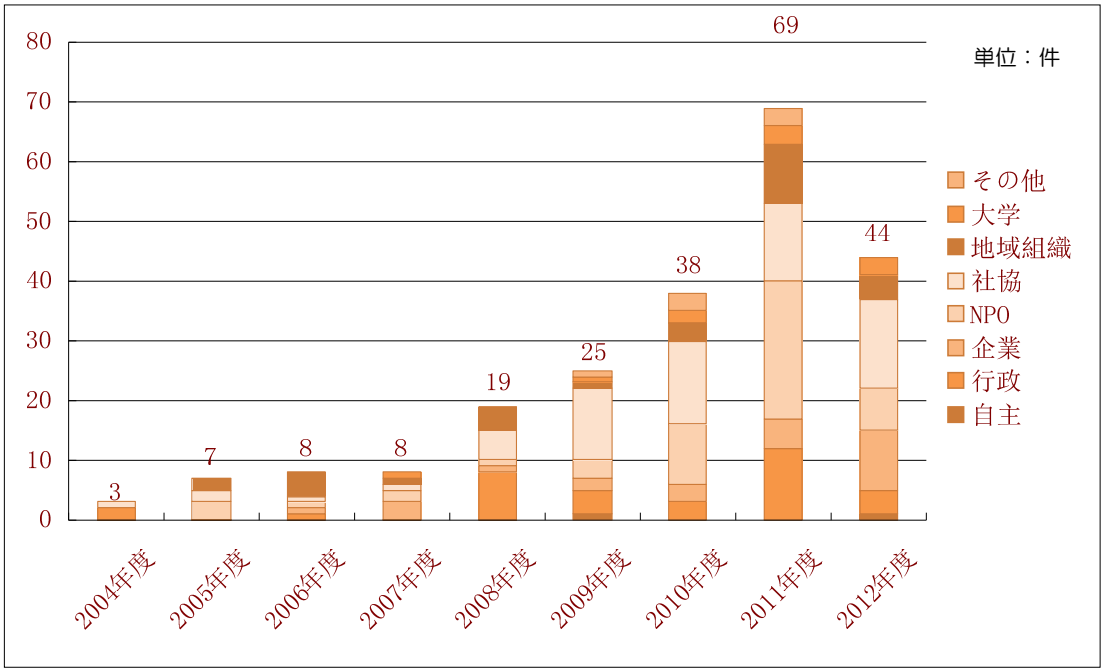
次年度方針

①ファシリ養成講座を継続して行う
主催講座を行うことは、まちわくとしてのファシリテーターについてのメッセージを発信しつつ、仲間を増やしていくためにも重要なので継続していく。ファシグラニーズもある。小阪・宮道以外のファシリテーターを育てていく。

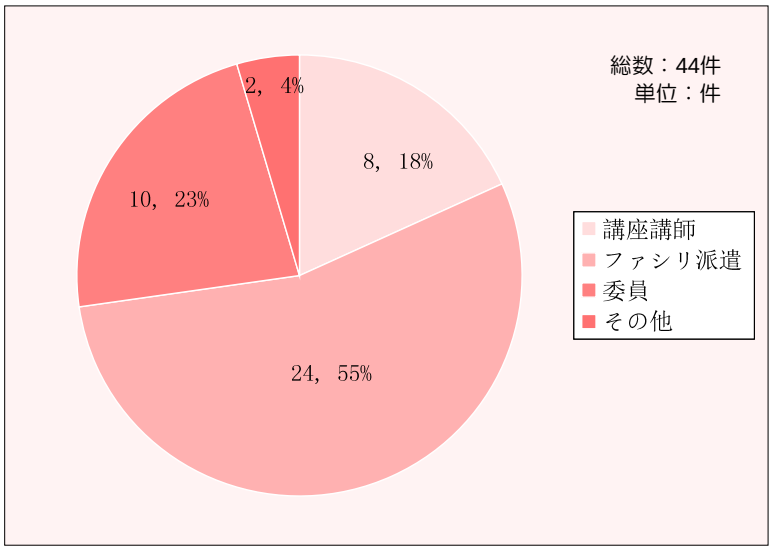
②ファシリテーター派遣の固定メニュー化
ファシリの固定メニューを提示していきたい。まちづくりゲームや防災WS、参加型会議、ファシリテーショングラフィックなど。
これまで行ってきた取り組みは大きく以下の3つに分類される。
1)まちの中での参加の機会づくり
2)参加の場づくりの方法～ファシリテーション～
3)非営利組織のマネジメント

③外部と組んでの参加のしかけを提供
行政、社協、コンサル、自治会、NPOなど、これまで連携しながら行ってきた外部パートナーとの業務機会を拡大していく。

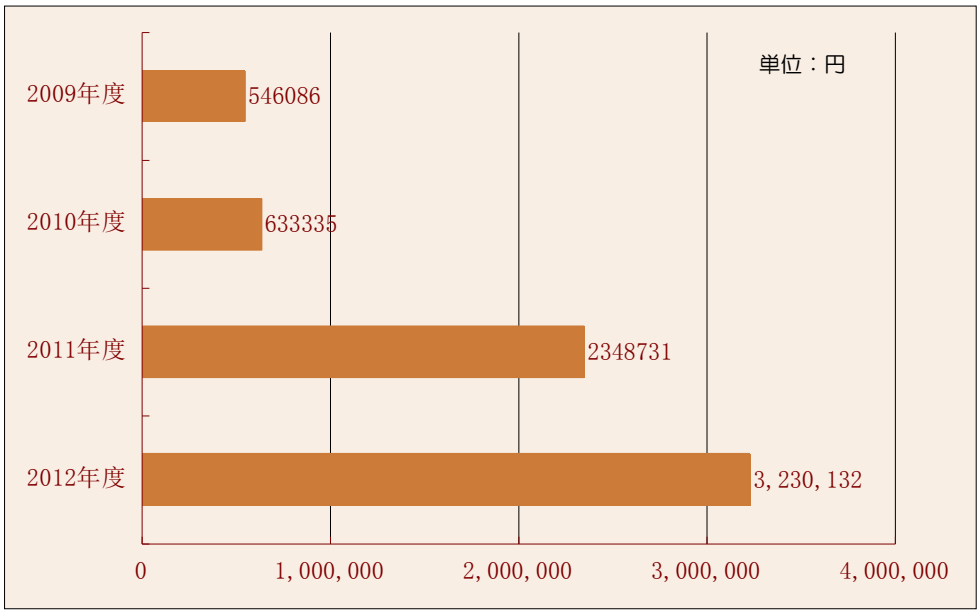
ファシリテーター派遣の経年実績（講師・ファシリ・委員・その他）



ファシリテーター派遣２０１２年度実績内訳



ファシリテーター派遣の収入実績



市民公益活動を行う団体の
「活動サポート」と「市民社会のインフラ整備」
― ＮＰＯ活動支援事業部 ―

●2012年度　目標

①糸満市での開かれた助成プログラムの実施

②NPO中間支援メニュー開発と発信　　③NPO活動支援力の強化

④沖縄地域社会ビジョン大学院の自走に向けた基盤整備

⑤沖縄NPO白書を活用したプログラム開発

■達成度【70%】

・糸満市市民活動支援センターは、中央市場へ移転リニューアル。市民提案型まちづくり事業補助金の事務局を担った。申請倍率が3倍になるなど、評価を得ている。（申請12団体・採択4団体）

・新しい公共支援事業の2年目として、沖縄地域社会ビジョン大学院の第2期プログラムを実施（参加者15名）。次年度の第3期開校を期待する声が上がっている。

ＮＰＯ活動支援事業部２０１２年度実施事業-1

糸満市市民活動支援センター委託事業

管理業務総計3,203件

（来館者761件、電話メール等2041件、センター外対応401件）

1）「糸満市市民提案型まちづくり事業」の企画推進

今年度で4年目となる本事業の事務局として、所管課とともに交付要綱・募集要項の見直しをはじめ、募集・審査・取材広報・報告と一連の業務を行った（申請12団体・採択4団体）

2）「市民活動講座（会計）」の開催

日常の基礎的な会計処理の方法を身に付け、団体の活動がわかる決算書作成の方法や税務処理が出来るよう行った

（参加：35名、NPO法人・任意団体・県市職員・専門学校生等）

3）「市民活動パネル展」の開催

日時：1月21（月）～28日（金）8:30～17:00

場所：糸満市役所1階ロビー／来場者数：述べ約700人

参加団体：展示22団体、物販4団体（売り上げ数：650点）

4）「テーマ型座談会」の開催

「異分野と交流したい」「行政と接点を持ちたい」という市民活動団体の声をもとに、各テーマを決め着席者を選定し開催した

第1回市民力地域力が育つ環境を目指して、第2回地域の防災

5）「市民活動相談会」の開催

相談日：原則第1木曜の午後、　相談対応数：述べ155件

相談内容：市民提案型まちづくり事業、NPO運営、法人設立等

6）市民活動の見える化・情報発信

広報紙『日々是好日』：3ヶ月1回（計4号）、発行部数：約600部

ブログ：毎開館日更新、市民活動便利帳ｉいとまんページ製作

「新しい公共支援事業」委託事業

公益財団法人みらいファンド沖縄と共同体（「新しい公共の人材育成と資金循環の持続可能なしくみ構築事業共同体」）を組み、県より事業を受託

1）沖縄地域社会ビジョン大学院事業

◆「沖縄地域社会ビジョン大学院運営協議会を発足

協議会にて「つなぎ手」人材の育成について議論

委員：佐藤学氏、岩田直子氏、当銘裕美氏、神谷牧人氏、宮里大八氏

開催日：第1回6月11日、第2回12月12日、第3回2月16日

○第3回は、「地域の「つなぎ手」人材の育成に関する円卓会議」として実施。

【参加者】55名

【着席者】久場祐介氏、長浜洋二氏、宮里大八氏、金城隆一、粟国 智光氏 、上間 正敦氏、石原 地江氏

◆「沖縄地域社会ビジョン大学院2012・夏」の開催

日時：2012 年8月1日（金）～10月6日（土）

講座数：座学14講座、フィールドワークの全28コマ、講師：14名、

受講者：19名（全課程コース9名、トライアルコース6名、単発受講4名）

参 加 費：全課程コース20,000円、トライアルコース：14,000円

場所：浦添市てだこホール

②　2012年度実施事業２

NPOスタッフ交換留学プログラム実施（Joint）

8月に川北秀人氏を講師に招き研修を企画したが、台風で中止。
2013年2月に、団体間のスタッフ留学プログラムを実施。Jointに参加する6名6団体が参加。まちわくからは、下地がNPO法人ハッピ～ハウスへ交換留学を行った。

上映会「和田中1000日」事務局支援

東濱氏が企画した映画上映会の事務局（広報、受付等）支援を行った。
【1回目】
日時：10月27日（土）　場所：浦添市中央公民館
参加者：92名
依頼業務：広報、チラシ作成、申込受付、当日受付、当日ワークショップ
【2回目】
日時：3月2日（土）　場所：興南中学校視聴覚室
依頼業務：ネットでの広報、申込受付、受付簿作成等

NPO法人会計基準調査

NPO法人会計基準協議会による調査として、12月時点での会計基準導入状況の調査を実施した。
・NPO法人数：　554件（内閣府ポータルサイト内）
・調査数：　313件（H23年度報告書提出法人数）
　　法人数の約56％
・調査方法：　沖縄県県民生活課にて公開されている
　　閲覧ファイルより読み込み抽出
・「活動計算書」と記載していた団体：　38件（全体の約12％）
・経常収益を5分類していた団体：　11件（全体の約3.5％）
・「事業費」と「管理費」について、それぞれ「人件費」と「その他経費」に分かれている団体：　20件（全体の約6.4％）

「わくわくnight」の開催（月1回）

わくわく空間利用者（3名）と各プロジェクトに関わっている方々との出会いと情報共有を目的として、月1回ゆんたく会を開催した。

おきなわ市民活動支援会議へ参加

沖縄県内の市民活動支援に携わる機関の情報交換を行う「おきなわ市民活動支援会議」の月例会議へ参加。

事業ふりかえり

①糸満市市民活動支援センターの運営
昨年度開所したセンターを5月中央市場へ移転。拠点づくりをはじめ相談業務を基本に、市民提案型まちづくり事業事務局、市民活動講座、市民活動パネル展を行い、広報紙やブログで情報発信を行った。また利用者の声に応え今年度からテーマ型座談会を行った。

②沖縄地域社会ビジョン大学院2012・夏の開催
受講者の評価は高かった。運営協議会は活用しきれず、3年目に向けた体制をつくりきれなかった。
昨年度受講生の1期生が企画した映画上映会へ実行委員として2期生も関わる等、OB/OGのネットワークができつつある。

③NPOスタッフ間交換留学の実施
これまで実施してきた川北氏（IIHOE）を講師に招いての集合宿泊研修は台風の影響もあり、行わず、これまでJOINT研修に参加してきた団体間の1日間のスタッフ交換留学を行った。

次年度方針

①糸満市市民活動支援センターの拠点づくりと関係づくり
「出会い・つながり・深める」をキーワードに、平成24年度事業をより深化させ、糸社協共催で市民活動体験型パネル展を開催する。資源循環研究会（仮称）を再スタートさせる。

3年目の運営となり、6万人口規模での市民活動支援のあり方をまとめ、提言していく。他自治体への展開も模索する。

②ビジョン大学院の次なる展開
第3期に向けた商品化へ。輩出したい組織（行政・企業・NPO・地域）からの資源と育成される受講者の受益者負担からスキームを考える必要あり。 また、OB/OGのサロンやOBOG向けの受講プログラムなども展開する。

③ジョイント研修プログラムの開発
これまでの集合型の宿泊研修（仮想理事会）や今年度行った団体間の交換留学などを元に、必要な学び、事業に生かすことのできるプログラムを開発し、実践する。

地域のＮＰＯモデルとなる
継続的な市民活動の組織運営
― 総務部 ―

●2012年度　目標
①定期的な収支確認のしくみづくり
②労務体制の強化
③サービスの見えるホームページのリニューアル

■達成度【50%】
・支出の資金繰り管理を行うことはできたが、中長期の収入を予測した管理について課題である。
・独自にホームページの情報更新ができるしくみは整えたが、リニューアルまではいたっていない。
・岡山へのスタッフ研修視察旅行を行い、問題意識の向上と共有ができた。

実施概要

会計業務
・経理担当の宮下が10月に体調不良により退職したため、会計業務を宮道、下地で分担。会計作業と一部大城税理士事務所へ委託

「バックオフィスサポート」サービス中止
・サービスのニーズはあったが、経理担当の宮下の退職に伴い「バックオフィスサポート」のサービスを中止。

事務局サポート
・マチグヴー楽会の総務・会計のサポートを行った。

職員研修in岡山＆神戸を実施
・スタッフ研修として岡山＆神戸の中間支援団体やまちづくりNPOを視察。

【日時】2012年10月20～22日(3日間)
【参加者】小阪、宮道、下地、上原、(岡山で宮下と合流)
【視察先】NPO法人岡山NPOセンター、ゆうあいセンター、NPO法人倉敷町家トラスト、NPO法人シミンズシーズ

(公財)みらいファンド沖縄から我如古氏がまちわくへ出向
・2013年1月～3月の3ヶ月間、(公財)みらいファンド沖縄の我如古盛修氏がまちわくへ出向。住民ワークショップの運営補助や(株)国建からの業務委託を担当。

次年度方針

■次年度への課題

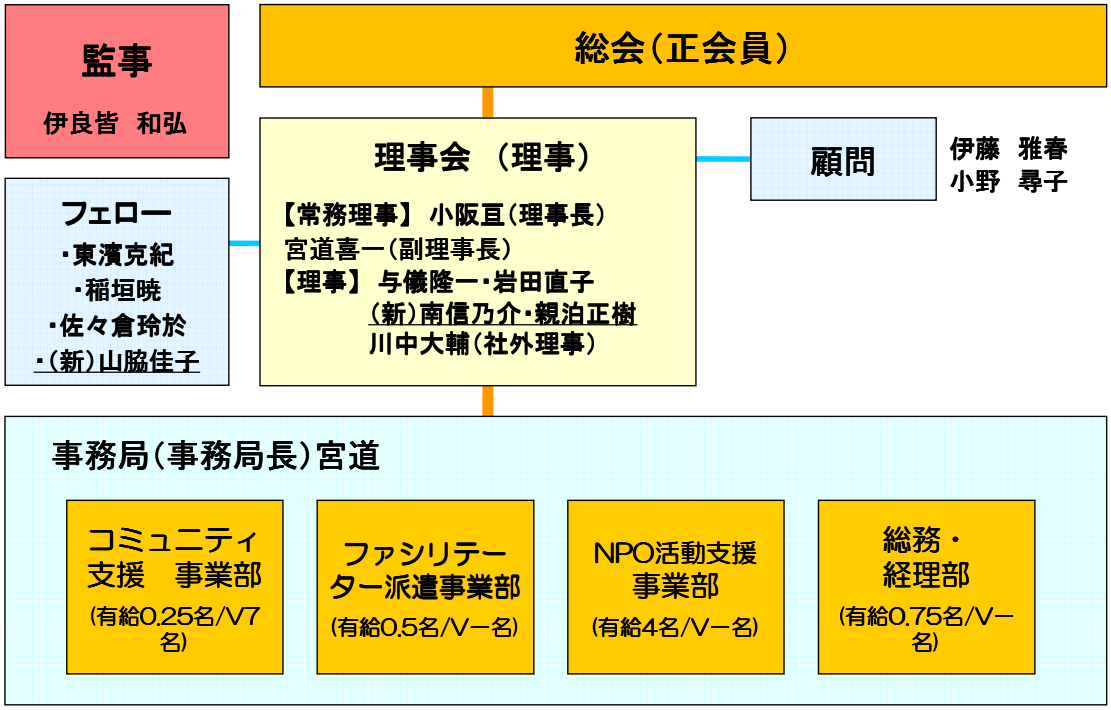
①資金繰りの管理
支出の資金繰り管理は行ったが、中長期の収支の資金繰り管理をしていく必要がある

②会計管理
総務スタッフの宮下の退職に伴い、宮道・下地が総務業務を分担。総務業務を共有するための書式等の整備、ルール作りが必要

③積立金
次年度から積立金会計をつくっていく。

③ホームページ、メルマガでの情報発信
下半期は、ホームページ・ブログ・メルマガでの情報発信、更新ができなかった。記事掲載や発信する時期等ルールづくりが必要。また、提供するサービスや受益者の声の見えるホームページへのリニューアルも必要である。

２０１２年度　体制



２０１２年度　組織運営

- 会員
  - 正会員16名／準会員0名／賛助会員1名（1口）／学生会員0名
- 通常総会の開催
  - 2012年5月18日(金) 19時30分より21時30分
- 決算理事会の開催
  - 決算理事会　2012年4月27日(金) 13時00分より18時00分、28 日(土) 9時30分より12時00分
- 理事会の開催
  - まちなか研究所わくわくの運営に関して月１回理事による運営会議を開催。必要に応じて、理事会を開催した。
- 加盟組織
  - NPO 法人シーズ・市民活動を支える制度をつくる会（賛助会員）
  - NPO法人会計基準協議会（会員）
  - 久茂地小学校を存続させる会（構成団体）
- 関連団体
  - マチグヮー楽会
  - 公益財団法人みらいファンド沖縄
- 掲載データベース
  - CANPAN（日本財団）
  - NPOヒロバ（日本NPOセンター）
  - みらいファンド沖縄NPOデータベース

２０１２年度　事務局体制

- 事務局長（宮道喜一）
- コミュニティ支援事業部
  - 常勤：宮道、小阪、下地、宮下朋美（10月まで）、我如古盛修（1-3月）
  - ボランティア：35名（み～きゅる5名、マチグヮー楽会10名、寺子屋20名）
- ファシリテーター派遣事業部
  - 常勤：宮道、小阪、下地
  - アルバイト：仲村任子
  - ボランティア：安慶名豊美、親泊正樹
- 総務・経理部
  - 常勤：宮下（10月まで）、宮道、下地
- NPO活動支援事業部
  - 常勤：小阪、宮道、下地、上原千加子（糸満専従）
  - 非常勤：中島（糸満専従）
  - アルバイト：糸数温子(7～9月)、我部江草(8～11月)、親泊正樹(8月～2月)
  - インターン：大城日奈江(3日間)